

もともと畑だった大きな敷地、住宅密集地には無い周囲の自然環境、「明るい家に住みたい」というH様ご家族には最適な恵まれた敷地でした。

何の制約もないからこそ無限に広がるイメージとのにらめっこ。途中まで進めていたPLANをひっくり返して再提案させて頂いた現PLAN。お見せした時に「何も言うことないです」と言つていただき、心中で嬉し泣きした記憶が蘇ります。

結果的には少しだけ予算オーバーになるのですが、それでも現PLANの家で生活する価値と一緒に見い出して下さいました。

「光と風」

ここで意識したのは光と風。明るい家に住みたいと一言で言つても「明るい」の定義は人それぞれ。H様が求められている明るさと、設計側とのイメージの共有作業で生まれたりビング東側の凹んだ軒下は、明るさを取り込みつつ、外から中は見えにくい造りになっています。

そこにウッドデッキを持つてくる事で、休日家でゆっくり過ごされるご主人のくつろぎスペースになります。さらにはそこから広がる芝生で遊ぶお子さんを眺めたり…。

三方建物に面している軒下は雨の日の遊び場、物干しスペース等使い方は様々です。今回は和室を隣接して配置し、離れのような使い方も可能になりました。

リビング南側のハイサイドサツシは南の光を取り込みつつ、プライバシーを確保しています。また、高い位置に窓を設ける事で高低差を使った換気が出来、気持ちの良い風が室内を通り抜けていきます。収納スペースにも窓を配置し、風の通り道をつくる事で、湿気や淀んだ空気の籠もらない、風通しの良い家になりました。

近年、住宅の高性能化によって住宅のあり方も様々になつています。最近は特にゼロエネやZEH（ゼッチ）といったワードをご存知の方も多いのではないでしょうか。

確かに住宅のエネルギー効率を考えると、高性能の住宅というのは、これから時代必須のような気も致します。しかし、高性能に頼りきつて、窓を締め切つた生活というのは何處か寂しい氣がするのです。（機械換気・給気を行う住宅では窓を開けずに生活出来てしまします。）

日本人は古来より、四季の移り変わりの激しい土地で快適に暮らす方法を生み出してきました。

それは軒下空間や縁側による、日差しとの上手な付き合い方だつたり、空間に時折現れる影や暗さは、次に現れる明るい開放スペースを引き立たせるものであつたり、少し暗い茶室で心静まる時間を過ごしたり。さらには、昔の住居は水廻りを離れに造つており、究極の湿気対策になつていました。

それらは、お金の豊かさは無かつたが、心の豊かさや知恵によるものだつたのではないでしようか。

住宅の高性能化は優れた技術であり、大変効率の良いものですが。しかし、決してそれに埋もれる事無く、日本人が築いてきた知恵や感覚を大切に、新たな技術と上手に付き合つていきたいものです。

話は前後しますが、先に書いたH様邸の特徴は、何も特別な事ではなく、現代の平均的な性能は有していますが、最先端の住宅というわけではありません。

人がそこで生活していく感じの「ちょうど良い」

この感覚に集点を置くことで、特別な設備など無くても十分に快適に暮らすことが出来るのです。

もちろん住まい手によつて、いろいろな「ちょうど良い」があります。それが性能であるのか、デザインであるのか、使い勝手であるのか。zuiunでは、この「ちょうど良い」を一緒に探してまいります。

軒で繋がる内と外。

zuiun便り vol.37